

総 説

I 市章



諫早市の「い」の文字を6つの輪(旧1市5町)で構成し、「調和する美しい自然風景と歴史」、「元気に響き合う市民の心」、「未来に飛躍する諫早市の姿」を表現しています。

また、中央の白地が長崎県の「N」にも見え、県央に位置する諫早市を象徴しています。

(新市誕生を前に募集し、平成16年11月25日の合併協議会で決定されました。)

II 市域

市役所の位置 東経130度3分

北緯32度50分

市の面積 341.79 km²



Ⅲ 沿革

長崎県南部の中央に位置し、有明海・大村湾・橘湾という3つの海に面した諫早地域は交通の要衝として古くから文献にも登場します。諫早の歴史はその地理的特性を活かし、陸や海を媒介とした他地域との活発な交流の歴史であったと言えるでしょう。

旧石器時代からの古墳時代

市内で最も古い時期の遺跡としては、大村湾南奥に位置する西輪久道遺跡(津久葉町)や鷹野遺跡(貝津町)、柿崎遺跡(貝津町)などがあります。これらは旧石器時代の遺跡で、約3万年前から約1万5,000年前のナイフ形石器文化の時期にあたります。

縄文時代は約1万年前に始まり、弓矢や土器の発明により狩猟や食料の対象が拡大された時期です。川頭遺跡(湯野尾町)は標高360mほどの高所に位置し、縄文時代早期の住居跡3棟が発見され、山間部での生活の様子が明らかになりました。有喜貝塚(松里町)は橘湾を望む縄文時代中期から後期の貝塚で、大正14年(1925年)、京都大学の浜田耕作博士によって発掘され、「長崎県考古学発祥の地」と言われています。伊木力遺跡(多良見町舟津)は大村湾南奥にあり、約5~6,000年前の縄文時代前期を代表する県内でも有数の遺跡です。縄文時代早期から後・晩期の土器のほか、ドングリの貯蔵穴や巨木をくりぬいた丸木舟が出土しています。築崎遺跡(飯盛町後田)では、縄文時代前期と後期の土器や石器が多く出土しています。以上の遺跡からは海と山に生活の糧を求めて活動する人々の姿がうかがわれます。

弥生時代には大陸から稲作や金属器などの新しい文化の波が押し寄せ、従来の狩猟・採集社会から大きく飛躍し、食料の生産が本格化します。新しい文化の一つとして支石墓という埋葬法がありますが、これは巨大な上石を数個の石で支える基盤のような形状で、約2,500年前の縄文時代晩期に朝鮮半島南西部から西北九州に伝わった墓制です。風観岳支石墓群(破籠井町)や井崎支石墓(小長井町井崎)がありますが、風観岳支石墓群は大村市との市境の標高200mほどの高所にあり60基以上が存在する大規模な墓地群で、埋

葬施設も石棺・壺棺・土壇など多様です。諫早農業高校遺跡(立石町)からは銅剣を副葬した甕棺が出土しており、この時期の中核となる集団の墓地と考えられています。西ノ角遺跡(森山町上井牟田)では石庖丁や鉄製の鎌など水田耕作に伴う遺物や弥生時代後期の竪穴式住居跡が出土しています。

古墳時代になると有明海西岸や橘湾沿岸などで古墳が築造されます。善神さん古墳(高来町東平原)は線刻のある6世紀の古墳です。大峰古墳(小長井町大峰)・長戸鬼塚古墳(小長井町小川原浦)は複式構造の横穴式石室をもつ円墳です。大峰古墳は直径20mほどの6世紀代の円墳で、石室長8.6mの横穴式石室で「石棚」が設けられる本県唯一の古墳です。長戸鬼塚古墳は直径15mほどの6世紀後半の円墳で、この一帯では最大(全長11.3m)の石室をもっています。内部には、クジラや斜格子などの線刻があります。古墳はこのほかに飯盛鬼塚古墳(飯盛町後田・6世紀後半)や小野古墳(小野町・6世紀前半)・柏原古墳群(森山町上井牟田・6世紀後半から7世紀前半)があります。

飛鳥・奈良・平安時代

大化の改新(645年)により国家のしくみは大きく変わり、天皇を中心とした政府が全国の土地と人民を直接支配することとなりました(公地公民制)。最大の事業は班田制の実施で、口分田の支給と租税徴収を容易にするために土地を基盤目状に区画する「条里制」が行われ、その痕跡が、田井原条里遺跡(仲沖町・幸町)・小野条里遺跡(宗方町・長野町・川内町)・田結条里遺跡(飯盛町里)などに残っています。小野条里・田結条里には土地の区画を示す「二の坪」・「三の坪」などの小字名も残っています。

また、行政機構が整えられて、全国は畿内及び国・郡・里に分けられました。『肥前国風土記』(732年)によると現在の諫早市のうち多良見町は彼杵群(長崎半島北部~西彼半島・大村湾一帯)に、その他は高来群(長崎半島南部~橘湾・有明海沿岸~島原半島)に属していました。

奈良時代になり、律令政府は、中央と地方の連絡を

緊密にするため、早馬を走らせる^{えきろ}と其の乗り継ぎ機関である^{うまや}駅家を整備しました。これは「^{えきせい}駅制」と言われます。『^{えんぎしき}延喜式』(927年)によると、長崎県内には^{にいきた}新分(彼杵群)・^{ふねこし}船越・^{のとり}山田・^{のとり}野鳥(以上高来群)の4駅があり、「船越」は船越町にあったと想定されています。

律令体制の根幹である公地公民の制度はやがて崩壊していき、地方の豪族や貴族・寺社は大規模な開墾を進めました。これが、「^{しやうえんせい}荘園制」の始まりです。これは平安時代にはいっそう進み、地方の豪族たちは所有する土地を有力な^{しやうえんりゆうしゆ}荘園領主に寄進し、国の役人の干渉や租税から逃れようとしてきました。地方の豪族たちは^{しやうくわん}荘官として年貢徴収、治安維持にあたり、武力を蓄え、のちに武士化していきます。

鎌倉時代から安土・桃山時代

鎌倉時代になると、宇佐神官(大分県宇佐市)に保管されている建久8年(1197年)の『^{おおかみ}八幡宇佐神宮神領大鏡』という文書の中に、「伊佐早村」が初めて登場します。藤井宮時という伊佐早村の本領主が、もともと公領であったこの地方を、平安時代の末期には宇佐神宮の^{しやうえん}荘園として寄進していたことが書かれています。

その後、伊佐早村は宝治元年(1247年)には「伊佐早庄」として登場します。「伊佐早庄」は旧諫早市域のほか森山地域・飯盛地域・高来地域・小長井地域に及んでいたと思われます(多良見地域は「彼杵庄」)。正和3年(1314年)の『^{ふかえ}深江文書』によると「伊佐早庄」は^{にんなんじぶつちいん}仁和寺仏母院領(京都市)になったようで、この地が宇佐神宮や仁和寺といった有力な^{しやうえんりゆうしゆ}荘園領主の庇護のもとにあったことがわかっています。

この時期の地方豪族には、船越氏・西郷氏・伊佐早氏・高木氏・湯江氏・伊木力氏・船津氏などが見られます。正応年間(1288年頃)に船越又次郎入道如覚は伊佐早庄の実質的な管理をしていたようですが、正和3年(1314年)を最後に文献から姿を消しています。これに代わって登場するのが伊佐早氏です。伊佐早庄の^{しやうくわん}荘官であつたらしく、その後諫早の北側を支配するようになりました。

南北朝の争乱の時期になると^{しやうえんりゆうしゆ}荘園勢力は完全に消え去り、激しい領主交代が行われます。埋津川を境にして南側は宇木城を居城とする西郷氏が南朝方(公家

方)に、北側は船越城を居城とする伊佐早氏が北朝方(武家方)について対立していました。明德3年(1392年)に南北朝合一がなされ、続く戦国時代初頭に西郷^{ひさむら}尚善が登場すると、その後江戸時代になるまでの約100年間、西郷氏がこの地方を治めることになりました。

西郷氏は、文明6年(1474年)、高城(高城町)を築き、さらに外敵の侵入を防ぐために沖城(仲沖町)・江城(森山町杉谷)・真崎城(真崎町)・古田城(高来町善住寺)などの支城を築きました。土木技術にも優れ、用水路整備・干拓・開墾などに取り組み、孫の^{すみたか}純莞の頃には、島原の有馬氏、平戸の松浦氏、大村の大村氏に肩を並べる豪族となりました。その後、西郷^{のむらた}信尚が天正15年(1587年)の豊臣秀吉の島津攻略の命令に従わなかったため、秀吉は筑後柳川の龍造寺家晴に伊佐早領2万2千石の朱印状を与えました。家晴は西郷氏に高城の明渡しを迫りましたが、これに従わなかったため、家晴は高城を攻め、西郷氏は島原方面へ敗走しました。龍造寺氏はその後自らの姓を「諫早」と改め、時代は江戸時代へと移っていきます。

江戸時代

佐賀藩はもともと龍造寺氏の領国でしたが、慶長12年(1607年)に鍋島勝茂を初代藩主とする佐賀藩が成立します。諫早家は「御親類同格」の立場にあり、以後明治時代までの約260年間「佐賀藩諫早領」として藩政の一翼を担いました。当時の諫早領域は、多良見町の一部が大村藩に含まれていたことを除けば、ほぼ現在の諫早市と同範囲です。

本藩である佐賀藩は財政再建のため、慶長15年(1610年)と元和7年(1621年)の二度にわたり諫早領地を取り上げ、当初の2万2千石は1万石余りにまで減少しました。また、佐賀代官所を置くなど政治的・経済的に諫早領に対する支配体制を強化していきます。のちに8代領主^{しげゆき}茂行の本藩後継問題に関与したことに対し、領主の^{あつぎ}蟄居及び更なる領地の取り上げという処分がなされた際、かねてから鬱積していた本藩に対する不満は、若杉^{しんご}春后を中心とし、家臣・農民・町民を巻き込んだ寛延3年(1750年)の「諫早一揆」という形で噴出することとなります。

自然災害も領民を苦しめました。本明川ではたびたび洪水が発生し、特に元禄12年(1699年)の水害では多くの生命が奪われ、翌年は一転して大干ばつに見舞われました。これらの災害の犠牲者を追悼するため、7代領主^{しげはる}茂晴により富川に五百羅漢が刻まれました。

このような状況下にあっても、諫早の人々の英知・高い技術力は至るところで発揮されました。干拓による新田開発が盛んに行われ、山崎^{のりきよ}教清(川内町)・松本四郎左衛門(飯盛町開)・陣野甚右衛門(森山町下井牟田)などが多大な功績を残し、今日の農業の大きな礎となりました。また、天保10年(1839年)に架橋された眼鏡橋は、永久に流れることのない橋をとの領民の悲願と石造二連アーチ橋という高度な技術力が結実して完成に至りました。

江戸時代初期に確立した長崎街道は、長崎と小倉を結ぶ街道で長崎～多良見～諫早(永昌宿)～大村へとつながります。また、諫早を分岐点として高来(湯江宿)～小長井方面へは多良海道・竹崎街道が、森山方面へは島原街道がありました。諫早はこれらの陸路や海上航路が集中・通過する交通・運輸の要衝としての地理的条件を活かし、栄えてきました。

明治から昭和初期

慶応3年(1867年)、「王政復古の大号令」が出され、翌年の戊辰戦争を経て、明治4年には、廃藩置県が断行され、諫早は、佐賀県に編入されたものの、翌5年には長崎県となりました。

明治22年市制・町村制が施行され、1町18か村(諫早町、諫早村、北諫早村、小栗村、小野村、有喜村、真津山村、本野村、長田村、喜々津村、大草村、伊木力村、森山村、江ノ浦村、田結村、湯江村、小江村、深海村、小長井村)に再編されました。大正12年には、諫早町、諫早村、北諫早村が合併して諫早町となります。

産業では、養蚕業が盛んとなり、明治15年に士族授産として製糸会社大成社が設立され、その後、県立養蚕伝習所が諫早村に開かれるなど県内の養蚕・製糸業の中心地へと発展します。また、伊木力村を中心に品質に優れたみかんの商品栽培が拡大し、明治35年頃には「伊木力みかん」に名称が統一され、県産品の中心的地位を確立しました。

交通の整備も進み、明治31年に門司－諫早－浦上間の鉄道が開通し、明治44年には諫早－愛野間の島原鉄道が営業を開始、大正2年に島原湊まで開通しました。また、愛野、唐比、千々石間の温泉鉄道が大正12年に開通し、さらに小浜まで延伸しましたが、昭和13年に廃線となりました。昭和9年には国鉄平坦線(長崎本線)肥前山口－諫早間が開通しました。

道路も現在の国道の原形となる道が整備され、昭和8年には長崎－諫早間のコンクリート舗装が完成します。大正時代からタクシー、バス等の自動車営業が始まり、長崎県営バスが線路網を拡大していきました。

教育分野では、明治3年に好古館が廃止され同5年に学制が施行されると、各地区で小学校が続々と創立されました。明治40年に県立諫早農学校が創設され、同44年に発足した北高来郡立諫早実科女学校は大正9年に県立諫早高等女学校に生まれ変わり、明治17年に一旦廃止された諫早中学校が大正12年に復活、教育環境も充実しました。

昭和9年に都市計画が諫早町を中心に適用され、この頃から1町6村による合併機運が醸成され、昭和15年9月1日に諫早町、小栗村、小野村、有喜村、真津山村、本野村及び長田村が合併して諫早市となりました。

翌16年12月に太平洋戦争に突入し、すべては軍事優先となり、兵役召集、軍事動員が頻発し、学校教育の停止など総動員態勢となりました。

昭和中期(戦後)から平成

昭和20年代は激動の時代でした。昭和20年8月9日には長崎市に原子爆弾が投下され、約4,000名を超える被爆者を受け入れ救援看護にあたり、同15日終戦、9月には旧小野飛行場に連合軍約6,000名が進駐しました。

市民は、敗戦後の混乱の中で窮乏生活を強いられました。農地改革や教育自由化、地方自治制度などの民主化政策が推進され、昭和22年には国営諫早干拓が着工、聖母の騎士園が開設されました。

昭和20年代半ばを境に混乱期を脱し、バス路線の拡充や農林水産業などの生産が回復、奉納浮立や祭

りが復活され、市民生活も安定に向かいました。

昭和30年2月11日、町村合併促進法により、喜々津村、大草村、伊木力村が合併して多良見村に、江ノ浦村と田結村が合併して飯盛村が発足し、翌年9月20日には、湯江町、小江村、深海村が合併して高来町となりました。

昭和32年7月25日、未曾有の諫早大水害が発生、本明川はじめ多くの河川が氾濫、各所で山崩れが起こり、死者行方不明者630名などの大災害に見舞われました。この危機に地域が一致団結し、短期間に本明川等の大改修や災害復旧を成し遂げました。

昭和30年代後半は高度経済成長の中、西諫早地区への工業団地の立地など徐々に都市化が進み、昭和40年に飯盛村と多良見村が相次いで町制施行し、昭和41年に小長井村が小長井町に、昭和44年には森山村が森山町になりました。

昭和44年の第24回国民体育大会の主会場開催は県央地区発展の大きな契機となりました。長崎バイパスや諫早バイパスの開通、諫早－長崎間の複線化・電化、国道251号の開通や国道34号の改良開始など都市基盤が着実に整備されます。長崎市との時間距離の大幅な短縮は西諫早ニュータウンや喜々津シーサイドなどの市街地開発を促進しました。

また、近隣市町村による共同事務処理は昭和39年に開始された伝染病予防事務を皮切りに、昭和40年代後半には、し尿処理や県央地域広域市町村圏組合による消防救急事務、不燃物処理に拡大されました。

昭和50年代はじめには国立諫早青少年自然の家や「いこいの村長崎」が相次いで開設され、諫早文化会館も完成、橘湾でのタンカー石油備蓄が行われたのもこの頃です。昭和51年、国道207号(諫早－小長井)が小長井大橋の完成によって開通し、昭和57年には長崎自動車道(多良見－大村)が、さらに翌年に諫早北バイパスが開通するなど、県内交通の要衝として発展を遂げます。しかし、昭和57年7月23日、突如として猛烈な集中豪雨に襲われ、死者21名など飯盛町を中心に大きな被害を受けました。

昭和60年代は、226haの規模を持つ諫早中核工業団地の完成で幕を明け、企業進出が相次ぎ、県内有

数の産業集積拠点を形成し、平成元年には国営諫早湾干拓事業が着工されました。

平成8年、木造では最大規模の森山町図書館が開館し、拠点施設となる諫早図書館が平成13年にオープン、続いて海に面したたらみ図書館が開館、小長井文化ホールや高来西ゆめ会館など生涯学習施設の整備が進みました。また、森山スポーツ交流館や小野体育館などスポーツ施設も充実し、平成15年には全国高等学校総合体育大会の5競技が開催され、郷土高校生の活躍が市民に大きな感動を与えました。

合併、新たな歩み

平成5年に長崎県央地方拠点都市地域の指定を受け、県央地区の市町間の結びつきはさらに強まり、平成7年の地方分権推進法、平成12年の地方分権一括法、合併特例法の改正により地方自治も新たな時代に入りました。

平成12年2月には「県央地区市町村合併等調査研究会」が設置され、県央地区の1市5町の合併は段階的に任意合併協議会、法定の合併協議会と前進しました。

平成16年4月28日、1市5町は合併協定書に調印各議会の議決を経て、同年7月14日の総務大臣告示をもって正式に合併が決定しました。

平成17年3月1日、先人が築いてきた諫早市、多良見町、森山町、飯盛町、高来町、小長井町の輝かしい財産を新市に引き継ぎ、21世紀の県央拠点都市づくりに向けて「新・諫早市」が新たに船出いたしました。

平成17年9月に「平和都市諫早宣言」を行い、10月には「諫早市誕生記念式典」を開催し、「市の木」「市の花」を制定しました。

平成18年3月、市勢振興の基本方針となる「諫早市総合計画」を策定しました。

平成19年11月には、平成26年に本県で開催の第69回国民体育大会の開閉会式会場に県立総合運動公園陸上競技場が決定し、35年来の懸案であった九州新幹線西九州ルート武雄温泉・諫早間が、平成20年3月26日に認可・着工されました。

本市の防災機能の要であり、最先端農業の拠点となる「国営諫早湾干拓事業」が事業着手以来22年の

歳月を経て完成。平成19年11月20日完工式が挙行され、平成20年4月から本格的な営農が開始されました。

平成21年3月には、白木峰高原に、子どもたちが「生きる力」を培う場となる「こどもの城」が開館しました。

平成22年1月、市民の誰もが利用しやすく、有事の際の防火拠点施設でもある新庁舎で執務を開始しました。

平成24年6月29日には、既に建設中の九州新幹線西九州ルート武雄温泉・諫早間に加え、悲願であった長崎までの延伸と、肥前山口・武雄温泉間の新幹線事業による在来線複線化などを含んだ武雄温泉・長崎間のフル規格による整備の認可を受け、10年後の全線一括開業に向け、工事が着手されることとなりました。

平成24年7月27日から、17日間にわたりロンドンオリンピックが開催され、内村航平選手が体操個人総合で金メダルを獲得するなど、郷土選手が活躍しました。平成25年3月には、諫早中央体育館(内村記念アリーナ)を供用開始しました。

平成26年3月、市民の文化の発展と地域の振興を図る諫早市美術・歴史館が開館し、記念企画展として「諫早家ゆかりの品々展」を開催しました。

平成26年10月12日から11日間にわたり、第69回国民体育大会「長崎がんばらんば国体」が諫早市をメイン会場として開催され、45年ぶり2度目の天皇杯獲得を果たしました。また、11月1日から3日間、第14回全国障害者スポーツ大会「長崎がんばらんば大会」が開催され、各地で熱戦が繰り広げられました。大会期間中は、諫早市の物産、観光、歴史、文化などの様々な情報が発信されるとともに、両大会を通じ、運営に参画いただいた延べ約1,000人のボランティア等の協力のもと、市民総参加によるおもてなしが行われ、市民に多くの感動を与え成功のうちに閉幕しました。

平成27年3月1日、諫早市市制施行(合併)10周年を記念して記念式典が開催され、さらなる市勢発展に向けて新たな一歩を踏み出しました。

平成27年4月、新たな防災拠点となる県央消防本部・諫早消防署新庁舎が完成し、供用が開始されました。

平成28年3月、今後10年間を見据え、地域資源など本市の強みを活かした「笑顔あふれる希望と安心のまち」を目指して「第2次諫早市総合計画」を策定するとともに、少子高齢化・人口減少対策を戦略的に推進していくため、「諫早市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

将来都市像である「ひとが輝く創造都市・諫早」の実現に向けて、行財政の効率化と行政能力の向上を図りながら、総合的なまちづくりの諸施策を推進しています。

平成28年10月15日から4日間にわたり、第29回全国健康福祉祭ながさき大会「ねんりんピック長崎2016」が、「長崎で、ひらけ長寿の夢・みらい」をテーマにトランスコスモスタジアム長崎(県立総合運動公園陸上競技場)において盛大に幕を開けました。全国から選手、役員及び観客を含め約55万人が来県し、県内各地でスポーツや文化の交流大会をはじめ、健康に関する様々なイベントが実施されました。本大会の実施にあたり、多くのボランティア等の協力のもと、市民総参加によるおもてなしの取組により、多くの喜びと感動や記憶に残る大会として成功のうちに閉幕しました。

平成29年5月、長崎県で初となる総合水防訓練「本明川総合防災演習」を、国、県、本市の主催で開催し、水防の重要性の普及を図り、水防意識の高揚に努めました。同年11月、本市にあるトランスコスモスタジアム長崎をホームスタジアムとするV・ファーレン長崎が、平成17年のチーム発足から13年目にして、念願であったJ1昇格を果たしました。

平成30年7月、スポーツパークいさはやの第1野球場とスケートボード場を供用開始しました。また、同年8月には、諫早駅自由通路、JR九州の在来線と島原鉄道の新駅舎が完成し、供用が開始されました。

平成から令和へ

2019年5月1日、改元が行われ、「平成」から「令和」と新時代が幕を開けました。同年8月、スポーツパ

ークいさはやの第2野球場とサッカー場を供用開始しました。

令和元年12月に中華人民共和国において新型コロナウイルス感染症の感染事例が確認され、全世界に感染が拡大しました。令和2年3月に県内初の感染事例が確認されて以降、本市においても感染例の報告が相次ぎました。本市は3月16日に「諫早市新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置し、国や県と歩調を合わせた感染症対策を実施しつつ、本市独自にも「緊急経済対策」やワクチン接種体制の整備など感染予防対策に取り組んできました。

令和5年5月8日、感染症法上の分類が「2類相当」から季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げられたことを受け、同日付けで対策本部を廃止しました。これまでの感染者の入院勧告や外出自粛要請など特別な対応は終了し、個人の選択を尊重し、自主的な取組を基本とした考え方に変更となり、社会の正常化に向けた転換点を迎えました。ワクチン接種については、5月8日以降も公費負担による特例臨時接種が継続されています。

令和3年4月には、津久葉町の中核工業団地に立地するソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社長崎テクノロジーセンターの増設棟が竣工し稼働を開始しました。また、同社の事業拡大に伴い更なる設備投資が進められ、令和5年中に竣工予定です。

また、令和4年12月には京セラ株式会社から南諫早産業団地の立地申入れがあり、令和5年4月に立地協定を締結するなど、新たな雇用創出と地域経済の発展につながることが期待されます。

令和4年9月23日の西九州新幹線の開業に合わせ、諫早駅東地区の再開発事業や駅直結のバスターミナルが完成し、県央地域の玄関口として交通結節機能の強化が図られました。

諫早市では、今後も、県の地方機関「県南振興局」の庁舎建設に合わせた諫早駅北地区の整備事業をはじめ、本明川ダム、島原道路、大型商業施設の立地計画など大事業が集積しており、市の姿が大きく変化する非常に大事な時を迎えています。

IV 市長・副市長

1 市長

	氏 名	就任年月日	退任年月日
初代	吉 次 邦 夫	平成17年4月10日	平成21年4月9日
2	宮 本 明 雄	平成21年4月10日	平成25年4月9日
3	宮 本 明 雄	平成25年4月10日	平成29年4月9日
4	宮 本 明 雄	平成29年4月10日	令和3年4月9日
5	大久保 潔 重	令和3年4月10日	在 任 中

2 副市長

	氏 名	就任年月日	退任年月日
	副 島 宏 行	平成17年5月21日	平成21年5月20日
	宮 本 明 雄	平成19年4月1日	平成20年12月31日
	藤 山 正 昭	平成21年5月21日	平成25年5月20日
	早 田 実	平成25年5月21日	平成29年5月20日
	勝 見 康 生	平成27年4月1日	平成29年6月30日
	早 田 実	平成29年5月21日	令和3年4月30日
	大 水 敏 弘	平成29年7月1日	令和2年3月31日
	阿 部 寿 志	令和2年4月1日	令和3年6月30日
	藤 山 哲	令和3年5月1日	在 任 中
	石 橋 直 子	令和3年7月1日	在 任 中

※地方自治法の改正により、平成19年4月1日より市長の補助機関として助役に代わり副市長が新設されました。

V 市議会議長・副議長

1 議長

歴代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	古川利光	平成17年4月27日	平成19年4月26日
2	中村敏治	平成19年4月26日	平成21年4月9日
3	並川和則	平成21年4月24日	平成23年4月25日
4	並川和則	平成23年4月25日	平成25年4月9日
5	村川喜信	平成25年4月25日	平成27年4月24日
6	山口隆一郎	平成27年4月24日	平成29年4月9日
7	松本正則	平成29年4月20日	平成31年4月22日
8	田川伸隆	平成31年4月22日	令和3年4月9日
9	林田直記	令和3年4月22日	令和5年4月25日
10	南条博	令和5年4月25日	在任中

2 副議長

歴代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	川浪昭博	平成17年4月27日	平成19年4月26日
2	水田寿一	平成19年4月26日	平成21年4月9日
3	宮崎博通	平成21年4月24日	平成23年4月25日
4	土井信幸	平成23年4月25日	平成25年4月9日
5	藤田敏夫	平成25年4月25日	平成27年4月24日
6	松本正則	平成27年4月24日	平成29年4月9日
7	西口雪夫	平成29年4月20日	平成31年4月22日
8	島田和憲	平成31年4月22日	令和3年4月9日
9	林田保	令和3年4月22日	令和5年4月25日
10	中村太郎	令和5年4月25日	在任中

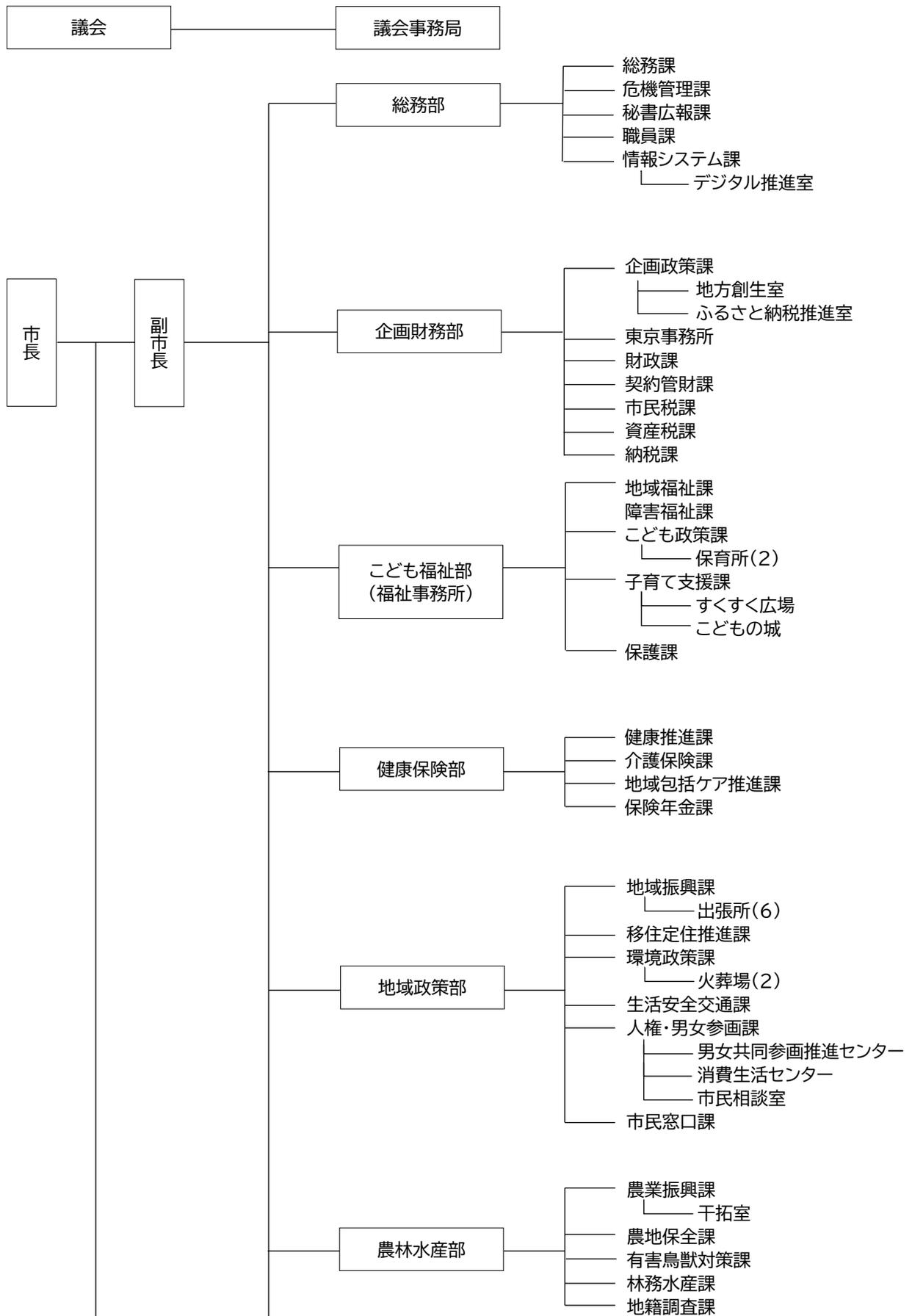
VI 最近の主なできごと

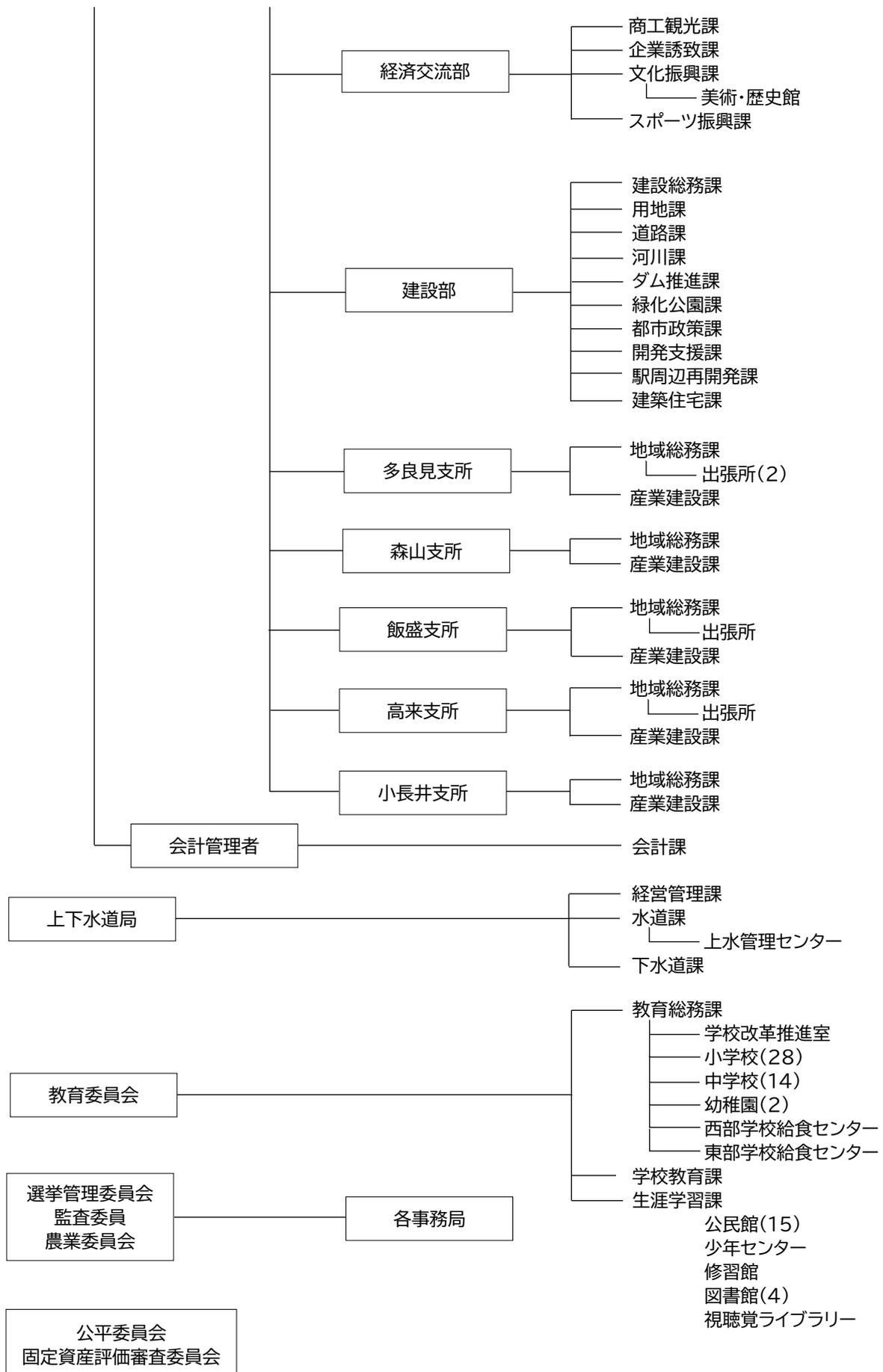
年	月	主な出来事	
平成25	3	諫早市中央体育館内村記念アリーナ完成、供用開始 県が建設を進めていた県立総合運動公園陸上競技場が完成、供用開始 第85回選抜高校野球大会に創成館高校が初出場 市川森一脚本賞創設	
	4	田結マリパーク多目的グラウンドが供用開始 諫早市長に宮本明雄氏無投票再選	
	5	副市長に早田美氏選任、教育長に平野博氏再任	
	7	参議院選挙から投票所閉鎖時刻を2時間短縮	
	9	諫早市東部学校給食センターが供用開始	
	10	内村航平選手が世界体操選手権大会個人総合で前人未到の4連覇達成	
	12	愛野森山バイパスが供用開始	
	平成26	3	諫早市美術・歴史館オープン 創成館高校野球部が2年連続で春の選抜高校野球大会に出場 高来幼稚園閉園 飯盛浄化センター供用開始
		4	全市一斉放送可能となった防災行政無線が供用開始 なごみ橋開通 小栗小学校の新校舎が完成
		6	長崎地裁が、諫早湾干拓事業の開門問題で差し止めを命じた長崎地裁の仮処分に従わず開門した場合の間接強制を決定 福岡高裁が間接強制の決定で命じた開門調査の履行期限を抑え、制裁金義務が確定
7		福岡高裁が、諫早湾干拓堤防排水門を開門した場合の国に制裁金を科すとした長崎地裁の決定を支持し国の不服申し立てを棄却する決定 野口弥太郎の長男野口一太郎氏が油絵「働く人々」を市に寄贈	
9		国体炬火集火式	
10		内村航平選手が世界体操選手権大会において個人総合5連覇達成 長崎がんばらんば国体開催【総合開・閉会式、ゴルフ、カヌースプリント、フェンシング、ウエイトリフティング、バレーボール、陸上、柔道】 天皇陛下・皇后陛下、皇太子殿下、秋篠宮殿下・秋篠宮妃殿下、高円宮妃殿下が御来諫	
11		長崎がんばらんば大会開催【総合開・閉会式、陸上競技(身体・知的)、バレーボール(身体(聴覚))]第1回森一忌が開催	
平成27		3	諫早市市制施行(合併)10周年記念式典 野口弥太郎大回顧展開催 副市長に勝見康生氏を選任
		4	県央消防本部・諫早消防署新庁舎落成記念式 西友諫早店が閉店
		5	プレミアム付き商品券「のんのご諫早商品券」を販売し即日完売
	10	諫早市美術・歴史館が「2015年グッドデザイン賞」を受賞 内村航平選手が世界体操選手権大会個人総合で 6 連覇達成。団体、個人総合、種目別ゆかで金メダルを獲得	
平成28	3	有喜・松里地区浄化センターが稼働を開始 第2次諫早総合計画を策定(平成28～37年度)	

年	月	主な出来事	
平成28	3	「諫早市長期人口ビジョン」及び「諫早市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定	
	4	なごみの里運動公園が完成し全面供用開始 熊本地震被災地へ職員を派遣	
	6	九州新幹線西九州ルート建設に伴い、JR諫早駅が仮駅舎での営業を開始 イノシシ処理販売センター完成	
	8	諫早市サッカー場が供用開始 森山図書館で火災(落雷) 内村航平選手(体操)、森岡紘一郎選手(競歩)、山口美咲選手(水泳)がリオデジャネイロオリンピックに出場。内村航平選手が団体で金、個人総合でも2大会連続の金メダル、山口美咲選手が400mリレーで8位入賞 山口美咲選手にスポーツ特別功労賞を授与	
	9	副島正純選手(車いすマラソン)がリオデジャネイロパラリンピックに出場 内村航平選手に特別市民栄誉大賞を授与・祝賀パレード実施	
	10	森岡紘一郎選手、副島正純選手にスポーツ特別功労賞を授与 ねんりんピック長崎2016開催【総合開会式、ソフトボール、マラソン、ソフトバレーボール】	
	平成29	3	諫早市長に宮本明雄氏再選
		4	貝津西公園が供用開始
		5	諫早市美術・歴史館の来館者が10万人を達成 諫早ゆうゆうランド干拓の里の入園者が300万人を達成 副市長に早田美氏再任、教育長に西村暢彦氏選任、上下水道事業管理者に馬場康明氏再任
		6	いいもり月の丘温泉の入館者が200万人を達成
7		副市長に大水敏弘氏選任	
平成30	8	井上大仁選手(マラソン)、山本凌雅選手(三段跳び)が世界陸上ロンドン大会に出場	
	11	V・ファーレン長崎のJ1昇格が決定 平成28年8月に落雷による火災被害のあった森山図書館が全面開館	
	12	「吾妻・愛野バイパス」開通	
	2	J1リーグに初参戦のV・ファーレン長崎が開幕戦 井上大仁選手(マラソン)が「東京マラソン2018」で日本歴代4位の記録で日本人2位となる総合5位	
	3	「手話言語条例」を制定 地域高規格道路「島原道路」の栗面インターから小船越インターまでの区間が供用開始	
平成31	5	内村航平選手(体操)がNHK杯で優勝し前人未到の10連覇達成	
	7	諫早市第1野球場とスケードボード場が供用開始 西日本豪雨災害の給水支援のため、愛媛県宇和島市に職員を派遣	
	8	諫早駅自由通路開通、JR在来線諫早駅および島原鉄道諫早駅の新駅舎が供用開始 井上大仁選手がアジア大会男子マラソンで優勝 こどもの城来館者100万人突破	
令和元	2	こどもの城10周年記念事業開催	
	3	いさはや水辺のクロスカントリーコース完成	
令和2	4	2019いさはやつつじ祭り～諫早眼鏡橋架橋180年～開催	
	8	諫早市第2野球場、諫早市サッカー広場が供用開始	
令和2	10	栄町東西街区市街地再開発事業による再開発ビル竣工 文化庁選定の歴史の道百選に多良通(多良海道)が追加選定	
	3	一般県道諫早外環状線諫早インター工区(栗面インター～諫早インター)全線開通	
	4	副市長に阿部寿志氏選任	

年	月	主な出来事	
令和2	4	新型コロナウイルス感染症対策のため、総務部に感染症対策総括室、健康福祉部に感染症対策室、商工振興部に緊急経済対策室を設置	
	6	「砂糖文化を広めた長崎街道～シュガーロード～」が日本遺産に認定	
	8	諫早市すくすく広場がオープン	
	9	諫早グルメ特化型の検索サイト「さぐっと」を運用開始	
令和3	12	iisa(諫早駅東地区再開発ビルⅠ棟)完成	
	2	健康福祉部にワクチン接種推進室を設置 諫早市美術・歴史館の来館者が20万人を達成	
	3	諫早市長に大久保潔重氏初当選 ライオンズ諫早ステーションスクエア(諫早駅東地区再開発ビルⅡ棟)が完成	
	4	諫早市テニス場(長崎県立総合運動公園内)の供用開始	
	5	副市長に藤山哲氏選任 教育長に石部邦昭氏選任 東京2020オリンピック聖火リレーが諫早市で開催 諫早駅東口一般交通広場が供用開始	
	7	副市長に石橋直子氏選任 内村航平選手(体操)が東京2020オリンピックに出場	
	10	内村航平選手(体操)が世界体操競技選手権に出場 山崎賢人選手(自転車)がトラック世界選手権大会男子ケイリンで5位入賞	
	11	「故市川森一氏顕彰碑」が建立	
	12	中国の友好都市「福建省漳州市」との友好交流提携30周年記念交流会を開催(オンライン形式)	
	令和4	4	11年ぶりとなる大規模な機構改革を実施 市役所本庁舎(本館・別館)及び諫早駅(観光案内PRコーナー、交流広場)で使えるフリーWi-Fi(公衆無線LAN)サービスが供用開始 伊木力浄水場が供用開始 諫早駅東口公共交通広場が供用開始
5		一般県道諫早外環状線長野工区(長野インター～栗面インター)開通 諫早バスターミナルが諫早駅東口(iisa1階)へ移転	
6		山崎賢人選手(自転車)がアジア自転車競技選手権大会男子スプリントで優勝	
9		諫早駅西口交通広場の工事完成 西九州新幹線が開業	
11		内村航平氏が大使第1号として「諫早市ふるさと特別大使」に就任 うないさんが「諫早おもてなし大使」に就任 45年ぶりの関取誕生・地元出身力士「対馬洋」	
令和5		4	諫早市消防団が再編(78分団→20分団) 京セラ株式会社と南諫早産業団地への立地協定を締結 諫早市美術・歴史館10周年記念企画を通年で開催
		5	役所広司氏がカンヌ映画祭で男優賞を受賞 教育長に石部邦昭氏再任 南諫早産業団地の造成工事が完了
		6	白木大悟選手(陸上)がヴィシー2023Virtus グローバルゲームズ(世界大会)で2冠
		7	垣根涼介氏が第169回直木賞を受賞

VII 組織・機構図





Ⅷ 庁舎

1 本庁

(1) 本庁



所在地 東小路町 7-1
 電話番号 22-1500 FAX 24-3270
 本館:平成21年11月30日完成 延床面積 18,236.81㎡
 別館:平成15年6月30日完成 延床面積 3,915.15㎡

(2) 出張所

名称	所在地	電話番号・FAX
小栗出張所	小川町 1222	22-1533・24-0370
小野出張所	黒崎町 181-2	22-0264・24-0483
有喜出張所	有喜町 488	28-2001・28-2067
真津山出張所	山川町 1-3	26-1500・26-1803
真津山出張所分室	貝津町 2890	26-9467・26-1707
本野出張所	上大渡野町 2-1	26-0270・26-2513
長田出張所	長田町 2394-2	23-9024・23-9647

2 各支所



(1) 多良見支所
 所在地 多良見町化屋 1800
 電話番号 43-1111 FAX 43-2072
 昭和52年12月25日完成 延床面積 2,769.44㎡



(2) 森山支所
 所在地 森山町本村 1300
 電話番号 36-1111 FAX 36-2504
 昭和50年8月31日完成 延床面積 1,460.89㎡



(3) 飯盛支所
 所在地 飯盛町開 1929-3
 電話番号 48-1111 FAX 48-1405
 昭和53年9月30日完成 延床面積 2,386.00㎡



(4) 高来支所
 所在地 高来町三部巻 528
 電話番号 32-2111 FAX 32-3235
 平成11年5月31日完成 延床面積 4,646.11㎡



(5) 小長井支所
 所在地 小長井町小川原浦500
 電話番号 34-2111 FAX 34-2335
 昭和41年9月30日完成 延床面積 1,209.68㎡

(6) 出張所

名称	所在地	電話番号・FAX
大草出張所	多良見町野副 17-1	43-1221・43-1236
伊木力出張所	多良見町舟津 1140	44-1002・44-1195
田結出張所	飯盛町里 648-3	49-1111・28-4126
小江深海出張所	高来町峰 19-1	32-2127・32-5180

IX 人口

1 国勢調査にみる人口の動き

令和2年10月1日現在

年次	世帯数(世帯)	人口(人)	対前回比(%)	男(人)	女(人)
大正9年	14,091	70,142		34,600	35,542
14年	14,623	73,950	+5.4	36,417	37,533
昭和5年	15,125	78,153	+5.7	38,280	39,873
10年	15,571	80,802	+3.4	39,678	41,124
15年	15,082	79,974	△1.0	39,538	40,436
22年	21,332	112,573	+40.8	54,573	58,000
25年	21,393	114,069	+1.3	55,752	58,317
30年	21,185	114,348	+0.2	56,220	58,128
35年	22,209	110,965	△3.0	54,109	56,856
40年	23,164	107,672	△3.0	51,847	55,825
45年	25,026	107,030	△0.6	51,114	55,916
50年	28,808	114,822	+7.3	54,956	59,866
55年	33,962	127,339	+10.9	60,962	66,377
60年	37,235	134,804	+5.9	64,319	70,485
平成2年	40,489	138,918	+3.1	65,846	73,072
7年	44,453	142,517	+2.6	67,203	75,314
12年	47,730	144,299	+1.3	68,149	76,150
17年	50,052	144,034	△0.2	68,154	75,880
22年	50,989	140,752	△2.3	66,192	74,560
27年	51,897	138,078	△1.9	65,029	73,049
令和2年	53,235	133,852	△3.1	63,544	70,308

資料…国勢調査

2 国勢調査にみる産業別就業者数

令和2年10月1日現在

産業分類別	R2年		R2年/H27年(%)	男(人)	女(人)
	就業者数(人)	構成比(%)			
総数	64,116	100.0	96.9	33,714	30,402
第1次産業	3,513	5.5	85.3	2,075	1,438
農業	3,301	5.1	85.2	1,910	1,391
林業	63	0.1	91.3	52	11
漁業	149	0.2	84.2	113	36
第2次産業	14,001	21.8	95.1	10,347	3,654
鉱業、採石業、砂利採取業	49	0.1	67.1	36	13
建設業	5,740	9.0	98.3	4,838	902
製造業	8,212	12.8	93.2	5,473	2,739
第3次産業	44,308	69.1	98.6	20,084	24,224
電気・ガス・熱供給・水道業	284	0.4	98.6	242	42
情報通信業	544	0.8	90.7	381	163
運輸業、郵便業	2,705	4.2	101.5	2,289	416
卸売業、小売業	9,742	15.2	96.7	4,565	5,177
金融業、保険業	1,310	2.0	96.5	468	842
不動産業、物品賃貸業	837	1.3	107.9	487	350
宿泊業、飲食サービス業	3,081	4.8	89.6	1,004	2,007
教育、学習支援業	3,350	5.2	103.5	1,432	1,918
医療、福祉	12,075	18.8	102.7	2,781	9,294
複合サービス事業	625	1.0	80.7	368	257
サービス事業(他に分類されないもの)	6,999	10.9	99.2	4,037	2,962
公務(他に分類されるものを除く)	2,756	4.3	95.0	2,030	726
分類不能の産業	2,294	3.6	95.8	1,208	1,086

〔備考〕総数は15歳以上の就業者を示すもので、完全失業者、非労働者は含んでいない。

※サービス業(他に分類されないもの)には、学術研究、専門・技術サービス業、生活関連サービス業、娯楽業を含む。

構成比は小数点第2位を四捨五入。

資料…国勢調査

3 町別・地区別人口

令和5年8月1日現在

町名・地区名	合計	男	女	世帯	町名・地区名	合計	男	女	世帯
東小路町	110	58	52	62	宗方町	675	339	336	281
仲沖町	1,070	511	559	448	小野小校区(小野計)	5,318	2,531	2,787	2,131
上町	302	145	157	161	松里町	834	401	433	360
栄町	335	153	182	158	有喜町	1,589	670	919	396
八坂町	99	48	51	47	早見町	388	177	211	173
本町	214	97	117	92	天神町	349	179	170	129
東本町	191	97	94	91	中通町	607	273	334	237
旭町	320	136	184	149	鶴田町	124	61	63	50
八天町	613	297	316	322	有喜小校区(有喜計)	3,891	1,761	2,130	1,345
厚生町	280	138	142	160	久山町	1,943	1,011	932	858
高城町	76	28	48	42	久山台	1,703	822	881	683
幸町	3,542	1,642	1,900	1,615	貝津町	3,236	1,784	1,452	1,475
諫早小校区計	7,152	3,350	3,802	3,347	貝津ヶ丘	896	455	441	237
西郷町	1,020	466	554	444	若葉町	1,559	876	683	702
新道町	452	213	239	222	津久葉町	10	10	0	10
立石町	230	130	100	125	青葉台	707	345	362	319
上野町	385	182	203	155	真津山小校区計	10,054	5,303	4,751	4,284
船越町	920	461	459	499	真崎町	3,357	1,598	1,759	1,313
原口町	1,407	668	739	654	津水町	472	241	231	202
西小路町	438	202	236	191	※真崎団地	312	133	179	129
宇都町	1,109	511	598	554	※白岩町北部	632	293	339	252
野中町	743	334	409	246	堀の内町	569	244	325	228
上山小学校区計	6,704	3,167	3,537	3,090	真城小校区計	5,342	2,509	2,833	2,124
福田町	4,269	2,040	2,229	1,833	※堂崎町	2,172	909	1,263	1,083
泉町	1,425	680	745	687	※白岩町	1,166	519	647	520
城見町	1,837	863	974	808	真崎小校区計	3,338	1,428	1,910	1,603
天満町	2,244	1,035	1,209	1,090	小船越町	4,685	2,330	2,355	2,081
金谷町	585	266	319	257	※中尾町	856	393	463	380
日の出町	1,703	833	870	711	※山川町	1,439	634	805	629
北諫早小学校区計	12,063	5,717	6,346	5,386	※馬渡町	1,431	658	773	625
永昌町	1,962	898	1,064	964	西諫早小校区計	8,411	4,015	4,396	3,715
永昌東町	1,001	484	517	582	真津山計	27,145	13,255	13,890	11,726
栄田町	4,534	2,125	2,409	1,979	※西諫早ニュータウン計 (再計)	8,008	3,539	4,469	3,618
西栄田町	1,296	614	682	474	本野町	441	212	229	136
破籠井町	365	190	175	134	富川町	168	80	88	65
大さこ町	979	481	498	260	湯野尾町	293	136	157	123
御館山小学校区計	10,137	4,792	5,345	4,393	上大渡野町	547	248	299	142
本明町	640	293	347	257	下大渡野町	465	231	234	180
目代町	1,136	547	589	327	本野小校区計(本野計)	1,914	907	1,007	646
上諫早小学校区計	1,776	840	936	584	小豆崎町	860	425	435	358
中央計	37,832	17,866	19,966	16,800	西里町	793	370	423	300
小ヶ倉町	192	86	106	71	中田町	214	92	122	83
小川町	4,004	2,073	1,931	1,419	御手水町	181	94	87	76
鷺崎町	1,269	634	635	533	大場町	78	33	45	32
川床町	893	450	443	280	白木峰町	119	61	58	46
小栗小校区計	6,358	3,243	3,115	2,303	長田町	1,422	657	765	479
栗面町	1,662	780	882	742	正久寺町	363	171	192	129
平山町	1,513	803	710	734	高天町	280	129	151	109
土師野尾町	306	148	158	126	白浜町	297	135	162	111
みはる台小学校区計	3,481	1,731	1,750	1,602	白原町	264	123	141	90
小栗計	9,839	4,974	4,865	3,905	猿崎町	110	51	59	46
赤崎町	483	222	261	194	長田小校区計(長田計)	4,981	2,341	2,640	1,859
黒崎町	397	193	204	153					
小野町	920	433	487	406					
小野島町	810	368	442	279					
川内町	1,236	583	653	496					
長野町	797	393	404	322					

資料…諫早市町別推計人口

(令和2年国勢調査による人口集計を基にした人口及び世帯数を推計したもの)

町名・地区名	合計	男	女	世帯	町名・地区名	合計	男	女	世帯
シーサイド1区	607	274	333	255	池下	241	118	123	107
シーサイド2区	703	316	387	301	清水	435	212	223	160
シーサイド3区	706	339	367	277	寺平	251	119	132	96
シーサイド4区	649	320	329	283	田平	130	57	73	60
大島	876	415	461	390	川下	181	93	88	82
化屋	806	388	418	361	古場	245	126	119	97
喜々津東小校区計	4,347	2,052	2,295	1,867	飯盛西小校区計	1,483	725	758	602
停車場	437	229	208	221	飯盛地域計	6,616	3,197	3,419	2,564
福井田	242	102	140	118	神津倉	448	202	246	117
阿蘇	383	177	206	172	三部巻	595	305	290	271
丸尾1区	899	371	528	251	里	275	125	150	112
丸尾2区	492	226	266	216	町名	307	135	172	121
井樋ノ尾	401	198	203	184	法川	171	83	88	84
(喜)船津	406	205	201	173	黒崎	454	220	234	169
木床1	1,143	569	574	491	小峰	416	215	201	152
木床2	797	391	406	333	善住寺	148	73	75	49
中里	1,186	602	584	483	東平原	557	252	305	206
喜々津団地	993	478	515	442	水ノ浦	122	58	64	41
下市	594	293	301	226	溝口	525	230	295	223
上市	364	172	192	151	山道	198	89	109	86
山中	240	119	121	123	汲水	379	195	184	147
多良見団地	505	240	265	217	坂元	227	105	122	84
西川内	294	140	154	103	黒新田	63	34	29	11
喜々津小校区計	9,376	4,512	4,864	3,904	泉	163	70	93	61
東園	154	76	78	62	金崎	314	150	164	124
西園	198	96	102	81	湯江小校区計	5,362	2,541	2,821	2,058
野副	313	145	168	131	下与	601	283	318	248
大草小校区計	665	317	348	274	上与	99	52	47	38
元釜	414	180	234	157	峰	628	299	329	227
野川内	227	106	121	66	平田	114	56	58	39
山川内	93	46	47	36	折山	128	65	63	53
(伊)舟津	544	251	293	188	西平原	235	122	113	95
佐瀬	299	141	158	123	西尾	250	127	123	70
伊木力小校区計	1,577	724	853	570	小船津	242	115	127	105
多良見地域計	15,965	7,605	8,360	6,615	古場	49	19	30	23
田尻(釜西・中・上除く)	650	319	331	249	建山	143	64	79	46
杉谷	785	361	424	290	船津	452	230	222	179
唐比	1,014	434	580	345	大戸	378	197	181	155
森山東小校区計	2,449	1,114	1,335	884	富地戸	337	183	154	146
慶師野	494	209	285	186	高来西小校区計	3,656	1,812	1,844	1,424
本村	668	320	348	237	高来地域計	9,018	4,353	4,665	3,482
田尻(釜西・中・上のみ)	178	84	94	67	遠竹	496	219	277	208
上井牟田	465	211	254	183	みさかえの園外	373	76	297	16
下井牟田	650	310	340	237	遠竹小校区計	869	295	574	224
森山西小校区計	2,455	1,134	1,321	910	井崎	725	325	400	292
森山地域計	4,904	2,248	2,656	1,794	小川原浦	1,181	532	649	442
後田	656	295	361	206	田原	500	238	262	281
船津	283	119	164	140	広川良	14	9	5	9
下釜	327	159	168	151	牧	375	183	192	159
久保	150	73	77	55	小長井小校区計	2,795	1,287	1,508	1,183
佐田	403	184	219	158	長里	892	417	475	341
小島	592	272	320	240	長里小校区計	892	417	475	341
平古場	789	401	388	299	小長井地域計	4,556	1,999	2,557	1,748
石原	397	191	206	133	諫早市計	131,979	63,037	68,942	54,615
山口	403	201	202	147					
開	750	381	369	298					
上原	383	196	187	135					
飯盛東小校区計	5,133	2,472	2,661	1,962					

資料…諫早市町別推計人口

X 予算

1 令和5年度の主な事業

●第2子に係る保育料の無償化

同時在園児の第2子に係る保育料(0～2歳児)を無償化し、更なる子育て世帯の負担軽減を図るとともに、安心して子どもを育てる環境づくりを推進する。

●いさはやシニアおでかけ支援事業

高齢者が交通機関を利用する際の交通費の一部を支援することにより、高齢者の社会活動の範囲を広め、自立した生活及び健康増進を図る。

●文化会館大規模改修事業

長寿命化のための大規模改修を実施することにより、県央地区最大規模のホールとしての利用を継続し、文化芸術振興による交流人口の拡大を図る。

●道の駅整備事業

飯盛地域の国道251号沿いに道の駅を整備し、安全で快適な道路交通環境の提供と、魅力ある地場産品販売等の農業振興による地域活性化を図る。

●窓口DX推進事業

デジタル技術を活用し、来庁者の申請書記入等の負担軽減及び手続案内の充実を図るとともに、マイナンバーカードを利用した住民票、印鑑証明等各種証明のコンビニ交付サービスを導入することにより、住民サービスの向上及び業務の効率化を図る。

2 一般・特別会計総括表

(単位:千円)

会計名		令和5年度 当初予算額	対前年度 増減率(%)	令和4年度		
				当初予算額	最終予算額	
一 般 会 計		66,320,000	5.0	63,150,000	78,552,247	
特 別 会 計	国民健康保険事業	16,393,000	△1.4	16,634,000	16,637,109	
	後期高齢者医療	2,036,000	3.0	1,976,000	1,976,000	
	介護保険事業	保険事業勘定	14,429,000	3.4	13,948,000	13,948,000
		サービス事業勘定	10,000	5.3	9,500	9,500
	駐 車 場 事 業	30,300	1.7	29,800	30,980	
	墓 園 事 業	22,800	45.2	15,700	15,700	
小 計		32,921,100	0.9	32,613,000	32,617,289	
合 計		99,241,100	3.6	95,763,000	111,169,536	

3 令和5年度一般会計当初予算の状況

(単位:千円)

歳入				歳出			
区分		金額	構成比(%)	区分		金額	構成比(%)
自主財源	市 税	16,909,863	25.5	議 会 費	328,219	0.5	
	分担金及び負担金	298,955	0.5	総 務 費	1,936,185	2.9	
	使用料及び手数料	747,636	1.1	企 画 財 務 費	1,982,957	3.0	
	財 産 収 入	88,005	0.1	こ ども 福 祉 費	22,510,187	33.9	
	寄 付 金	1	0.0	健 康 保 険 費	6,725,998	10.1	
	繰 入 金	6,790,251	10.2	地 域 政 策 費	5,418,300	8.2	
	繰 越 金	1	0.0	農 林 水 産 費	2,167,780	3.3	
	諸 収 入	3,940,331	5.9	経 済 交 流 費	6,146,819	9.3	
	小 計	28,775,043	43.3	建 設 費	6,396,403	9.6	
依存財源	地 方 譲 与 税	506,144	0.8	消 防 防 災 費	1,971,818	3.0	
	利子割交付金	3,000	0.0	教 育 費	4,041,341	6.1	
	配当割交付金	59,000	0.1	災 害 復 旧 費	51,000	0.1	
	株式等譲渡所得割交付金	32,000	0.1	公 債 費	6,542,993	9.9	
	法人事業税交付金	180,000	0.3	予 備 費	100,000	0.1	
	地方消費税交付金	3,702,000	5.6				
	ゴルフ場利用税交付金	43,000	0.1				
	環境性能割交付金	21,000	0.0				
	地方特例交付金	127,000	0.2				
	地 方 交 付 税	11,887,000	17.9				
	交通安全対策特別交付金	19,000	0.0				
	国 庫 支 出 金	11,212,171	16.9				
	県 支 出 金	6,548,942	9.9				
	市 債	3,204,700	4.8				
小 計	37,544,957	56.7					
合 計	66,320,000	100.0	合 計	66,320,000	100.0		

